

潟東樋口記念美術館 潟東歴史民俗資料館

おひなさま展

主催 西蒲区文化施設を運営する市民の会・新潟市
協力 越後おひなさま保存研究会

2024年

1月23日(火)

4月14日(日)

月曜日休み

(月曜日が祝日の場合は翌日)

祝日の翌日休み

(日曜日が祝日に当たる場合はその翌々日)

9:00 ▶ 16:00

尾竹三兄弟 越堂・竹坡・國観 雛絵

享保雛・古今雛・次郎左衛門雛

松本押絵雛・越中和紙雛・瀬戸焼雛

手造り吊るし雛

享保雛
宝暦7年(1757)
約45cm

潟東樋口記念美術館 〒959-0505新潟市西蒲区三方92番地
潟東歴史民俗資料館 TEL 0256-86-3444

西蒲区文化施設を運営する市民の会・新潟市
TEL 0258-86-3077 (潟東地区公民館)



同時開催

『鎧潟(かた)の記憶』
令和6年1月16日(火)～3月10日(日)

『小松 明展—越後憧憬—』
令和6年1月30日(火)～3月10日(日)

おひなさま 展

主催 西蒲区文化施設を運営する市民の会・新潟市
協力 越後おひなさま保存研究会

2024年 1月23日(火) ▶ 4月14日(日)

9:00 ▶ 16:00 月曜日休み (月曜日が祝日の場合は翌日) 祝日の翌日休み (日曜日が祝日に当たる場合はその翌々日)

説明文敬称略



享保雛

宝暦7年(1757年) 約45cm
川上 徹 所蔵

製作年が分かる享保雛は希少で状態も良く、本邦初公開。雌雛は袖と裾が重ねられた五衣(いつつぎぬ)が特徴で、45cmと大きく、金糸を履んだん使い、煌びやかで豪華です。天冠にも損失もなく、瓔珞(ようらく)が完全な形で残っています。瓔珞の玉は手前が薄く奥が深い色と細部までこだわった造りになっていたことがわかります。



次郎左衛門雛

江戸後期
ギャラリー沙蔵 所蔵

京都の人形師菱屋(雛屋)、岡田次郎左衛門が造り始めた雛で、団子のような丸顔にスーッと引かれた引目に鉤鼻、ちょこんと描かれたおちょぼ口が特徴の雛です。雄雛は東帯に袴姿、雌雛は唐衣に赤袴です。



古今雛 描き目

江戸後期 京都製
猪本 爾六 所蔵

雄雛は平緒を付けた東帯姿で、浮線綾文様で木瓜紋が描かれています。袴まで金糸刺繍がほどこされ、雌ひなは金糸で五三の桐が刺繍されています。桐紋を賜る家からの興入れのさいに仕立てられた雛でしょうか。



越中和紙のおひなさま

堀内 章代 作

遥おひなさまコレクション
平野 礼子 所蔵

手漉し和紙 悠久和紙を使って、和紙の凛とした美しさと清らかさが生かしたデザイン。



松本押絵雛

遥おひなさま
コレクション

平野 礼子 所蔵

江戸中期から松本城下の士族の妻達が作り始めたと言われ明治の中期が全盛でした、大正初期から作る人がなくなり今では、ベラミ人形店一軒となりました。

座っているおひなさまは、古布を使い、お顔は、洋服を着たことがないという奥様が一筆一筆手書をしています。立雛は古布ではありませんが、珍しいので買い求めました。ご夫婦で押絵雛の復活に努めています。最近では、息子夫婦も。



尾竹越堂・竹坡・國観 雛絵

尾竹三兄弟:父親が現・新潟市南区(旧白根)、母親が現・新潟市西蒲区(潟東村)出身の当地に縁のある日本画家の越堂・竹坡・國観の三兄弟。中央画壇の帝展でも活躍した。雛絵は昨年までは越堂・國観の作品が知られていたが、竹坡の作品が見つからなかった。今回、竹坡作品が加わり3人そろい踏みでは本邦初公開。



尾竹竹坡



手作り吊るし雛

潟東保育園
潟東小学校
グループホーム中之口
(福)更生慈仁会さすまり



瀬戸焼のおひなさま

鈴木 義美 作

遥おひなさまコレクション
平野 礼子 所蔵

さらびやかなおひなさまが多いですが、瀬戸焼の素朴さを感じる作品です。着物の柄を見てください。こまやかな素敵な作品です。

『鎧潟(かた)の記憶』

令和6年1月16日(火)~3月10日(日)

同時開催

『小松 明展—越後憧憬—』

令和6年1月30日(火)~3月10日(日)

潟東樋口記念美術館
潟東歴史民俗資料館

〒959-0505新潟市西蒲区三方92番地

TEL 0256-86-3444

西蒲区文化施設を運営する 市民の会・新潟市

TEL 0258-86-3077(潟東地区公民館)

交通/ JR新潟駅より 新潟交通バス:大野・ふるさと村経由

新潟営業所行、潟東営業所よりタクシー5分

JR越後曾根駅よりタクシー15分

